

総体を通して

翔南中学校 太田 雅也

「力を高め 心を磨き 夢を育む」これは翔南中学校の校訓です。1年生は「力いっぱい」何事にも全力で、2年生は「心いっぱい」人や場所、物に心を込めて、3年生は「夢いっぱい」未来に向かって、それぞれ学年のテーマとして、子どもたちは学校生活を送っています。そして私たち教師もこのテーマのもと、日々子どもたちと向き合っています。

第66回岡崎市中学校総合体育大会。当番校として3年生にスローガンを募集したところ、校訓から「力・心・夢」の3つのキーワードを入れ「感謝の心を力に 翔け夢 空へ」という言葉を考えてくれました。日々の生活の中で大切にしていることが、部活動の場でも必要であると考えていることを、うれしく思いました。また、「翔け」の言葉からは、翔南中生であることへの誇りと、翔南中学校の看板を背負い、代表として参加させてもらうのだというプライドも感じました。今回の総体は3年ぶりの開催でした。スローガンの中の「感謝」の言葉は、先輩たちはできなかった試合を経験させてもらえることや、多くの人の思いや支えがあって開催される大会であることを、再確認させてくれました。

「部活動は学校生活の一環である」よく言われる言葉ですが、もう一度意識を強くもつとともに、一環であるに留まらず、学校生活、将来的には社会生活の基盤にもなっていくのだという気概をもって、部活動の指導にあたっていこうと思います。

13年前、新任教師として見た総体激励会。当時の体育主任の先生の指揮台での姿。キレのある号令と、それに反応する生徒たちの一糸乱れぬ動き。その心のつながりに感動を覚えました。9年前、はじめて体育主任として見た総体本番。各校体育主任の先生方の熱い思いと団結力。これまで憧れだった先生方と同じ場所に立たせてもらっていることへのプレッシャーと同時に、次は自分が引っ張っていく存在になると、胸が高鳴りました。

総体には、今いる子どもたちだけではなく、多くの先輩や先生方の思いがたくさん詰まっています。私自身も総体を通して成長させてもらいました。指揮台で子どもたちの前に立つときには、多くの先生方から学んだことを自分の言葉として使っています。これからも総体がある限り、感謝の心を力に、子どもたちの夢が大空へと翔いていけるように、子どもたちとともに成長していきます。

咲き誇れ 福岡の華

福岡小学校 藏田 和馬

運動会の演技は、和の創作ダンス。この演技は、来年度以降も、福岡小の伝統演技として受け継がれていくことが決まっている。練習期間は2週間。5分の演技をこの短期間で完成させるためには、子供たちも教員も効率よく動かなければならない。高学年らしく集団のよさを表現できる演技を作り上げようと、5、6年の担任7人は、学年会を重ねた。そして、私は、何度も自宅で踊り、フレーズと動きが合うように考えた。

練習期間の序盤は、踊ることに必死で、子供たちの手の向きや目線がばらばらであった。そこで、



子供たちが動きをほぼ覚えてから、細かな指導に入った。手の角度、目線、足の出し方まで、一つ一つ丁寧に確認していく。子供たちにより合う表現方法がないか、教員同士で話し合い試行錯誤を重ねた。暑い中で練習を繰り返せば、子供たちは意欲を失っていくと思っていた。しかし、彼らの姿勢は変わらず、むしろ集中力は研ぎ澄まされていくように感じた。特に、6年生は、踊り終えた後に自ら無言になり、次の動きの準備をしていた。演技への意欲を態度で示し、子供たちの雰囲気は日に日



に良くなっていった。

本番当日、いつもに増して緊張感があった。同時に子供たちは、今までにないほど集中力を見せた。一番難しい隊形移動後の演技も、全くミスなく動き始めることができた。演技終了後、たくさんの拍手が校庭を包んでいた。子供たちの満足気な顔を見ることができ、私自身も達成感と感動を味わうことができた。

全力で取り組み、クラスの輪を超えて一つの作品を完成させた経験は、確実に彼らの大きな成長へとつながったと実感している。そして、私は、子供たちがひたむきに取り組めるような活躍の場を増やすことのできる教師を目指していきたい。

熱結 男川フルパワー 心ひとつに

男川小学校 伊奈 亨

「最後までやらせてください」運動会直前の練習。雨が降り出し、中止の判断を下そうと思っていた時だった。「雨でぬれる」とか「泥がついて汚い」といった言葉は一切出ず、ただひたむきに最後まで運動会に向けて全力を尽くそうとする子供たちの姿があった。

今年度の高学年演技のテーマは「熱結 男川フルパワー 心ひとつに」だ。「一生語れる最高の運動会にしたい」と語る6年生と一緒に考えた。運動会を通して、高学年220名全員の情熱をひとつに結び、団結した集団になりたいという願いがこめられている。

運動会の練習は、気持ちのこもった挨拶で始まった。運動場は子供たちのやる気と熱気に包まれた。見ている人の心を動かし、感動的な演技にするため「そろえる」ことを意識して何度も何度も繰り返し練習した。列をそろえる、声をそろえる、旗振りをそろえる、視線をそろえる、心をそろえる。子供たちは演技の細部にまでこだわり全力で練習に取り組んだ。

全校で演技を見合ったプレ運動会。美しく整列した隊形や構えの姿勢、迫力のある旗振りの音を目の当たりにした低学年、中学年からは「かっこいい！私たちも6年生になったらこの演技がしたい！」という最高の称賛の声が聞こえてきた。下学年の心を動かし、憧れを抱かせるかっこいい高学年の姿がそこにはあった。

そして、運動会当日。心をひとつに情熱を燃やした高学年220名が団結し、最高の演技をすることができた。運動会に向けて熱結する子供たちの姿に、私の心も熱くなった。最後まで全力を尽くし、精一杯旗を振った子供たちを心から誇りに思う。

心が動く感動的な体験が、人を大きく成長させてくれる。改めてそう感じる運動会であった。教師として、目の前の子供たちに向き合う姿を磨き、全力の姿で人の心に火をつけた子供たちと同じように、私も人の心に火をつけられる教師でありたい。



第1回体育部自主研修会を終えて…

4月27日、令和4年度の体育部自主研修会を開催することができました。第1回目は、講師にAsian LABO 代表の今久保隆博様をお招きして、「教えない指導～学びの当事者意識を育てる～」というテーマでお話をいただきました。当日は多くの先生方にご参加いただき、実りある研修会を行うことができました。



どの実践も自分にとっては新鮮なものばかりで、学びの深い時間となりました。「教えない指導」この言葉を聞いて、今の自分にとっても必要なことだと感じました。その中でも授業の展開における「判断」を子供に任せるということは新しい学びとなりました。つい、教えたくなくなってしまっている自分にとって、子供たちに「判断」を任せるとは不安なことでもあります。判断する時間が子供たちの思考を伸ばす大切な時間であることを痛感しました。この講座で学んだことを活用できる授業の展開を日々心掛けていきたいと思えます。このような、貴重な機会を与您いただきありがとうございました。

六名小学校 豊田 操平